

～新春随想～

青年教育に思う

教育長 安江又右エ門

肉眼に見られるならば、それはかえりて人間を怠惰と軟弱に導く結果ともなりかねませぬ。この際、将来の郷土を背負つて立つ青少年の人間づくりこそ重要な問題であり、村づくりにおける根本的な施策でなければならぬと思ひます。

現在、本村の青少年教育の場として、青年学級や青年団活動があり、青年の自主的運営と云う名のものと学習活動が続けられている。これは、曲り角に來ていると云われる農村の姿さながらの悩みを抱き乍ら、未解決のまま過ぎて來たように感じます。過去数年間、社会教育と云う面から、微力乍らこの問題と取組んで來た私には殊更その感を強くいだくものです。

新しい村づくりのためには、勿論物質的な面も必要であります。しかし乍らその事のみ急であつては一時の処置としか思えないし、

昨年十二月二十三日に東白川村印鑑証明条例が改正されました。これによると印鑑の証明は、印鑑届と同じように本人が直接役場へ出てき証明を受けなければならぬを未然に防ぐために改正し、どうしても本人が役場へ出てくる事ができないときは本人署名の委任状を

戸籍印鑑を大切に 窓口しましょう

きて新聞紙上に掲載されている折から、万が一の事故かと思ふに、委託状の用紙は役場に備えてあります。

こうした中で、こんど新しい青少年教育の場として、本村で実施している「青年建設班」こそ、勤労青年に對する望ましい教育実践活動であると考へます。すなわち、生活と学習と勤労が一本化して「共にくらし、共に学び、共に働く」ことの実践の場であるからです。生活は共同の力によつて支えられ、学習の多くは実習を通じて体得され勤労は学習と関連して、単なる労働でなく、実践する教育活動と云うことができません。あらゆる理論も批判もすべて実践を通してこそ始めて尊く意義づけられるものであり、青年自らが経験し体得しようとするところに青年建設班の特色があるように思ひます。

その実施にあつたつて、困難な問題にぶつかつたことも数多く、また、いふ批判もあつますが、ともあれ、いままでの青年建設班が農村における組織的な勤労青年の教育の場として最も望ましいものであることをいまだ一度強調するものであります。そして、この建設的な活動が望ましい姿として、こんど継続的に実施できらるならば、更に村に残る勤労青少年の全部を対象として、共同生活による学習体形の建直し、合宿所の施設、設備、教材等、補充強化し、全村挙げてこれが育成に協力をお願いするす。

その実施にあつたつて、困難な問題にぶつかつたことも数多く、また、いふ批判もあつますが、ともあれ、いままでの青年建設班が農村における組織的な勤労青年の教育の場として最も望ましいものであることをいまだ一度強調するものであります。そして、この建設的な活動が望ましい姿として、こんど継続的に実施できらるならば、更に村に残る勤労青少年の全部を対象として、共同生活による学習体形の建直し、合宿所の施設、設備、教材等、補充強化し、全村挙げてこれが育成に協力をお願いするす。

村議会

34年度歳入歳出決算認定 他九件を審議可決

去る十二月二十三日午後一時より、東白川村議会第二回定例会が本村役場に召集され、昭和三十四年度東白川村歳入歳出決算認定他九件の議題について審議されましたが、各々原案通り可決され、午後三時五十分閉会しました。

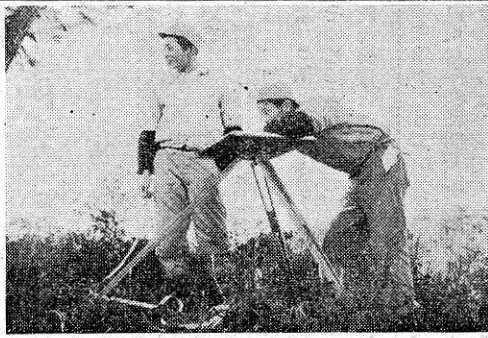
盛んに終る 去る十二月二十一日午後二時から東白川村公民館に於て、岐阜県蚕業青年研究会連絡協議会の定例会議が開催されました。これは東白川村蚕業青年研究会(S.S.K)の活動が県下に於ても優秀な成果を上げていますので、現地視察を兼ねて開かれたもので、各郡市の会長一十九名と関係者七名、本村からも村長、組合長をはじめ関係者数名が参加して盛大に開かれ、組織の強化自主性の確立、などの諸問題が討議され、東白川の蚕

しもやけを防ごう 子どものあしがしもやけになる季節です。しもやけは皮膚の血管の働きが不十分なために、寒さにあつて起るうづ血症状であります。これにかかりそうなときは手まめにマッサージをすることが大切です。さきの方から中心部に向けてこすり上げるような要領、あし指本づつみほぐすようにします。これには入浴のあとが一層効果があります。また、温湯と冷水を用意して交互に一分間くらいづつ毎日、十日間くらい、局部をひたす交互浴も効果があります。そのあとは乾いた布でこすりながら水気をよく拭きとり、脂肪を補給しておくことと良い。その他、あまりきゆう屈な靴や、皮手袋も、血液の循環を妨げてもやけの原因になるので、成長期の子どもなどに注意が大切です。 要は、初期のうちに手当をするのですが、痛んだり、くずれたりしたときは専門医の治療を受けるようにしましょう。

作業に学習に

張切る青年建設班

去る十二月六日発足した九日間の合宿生活を実施し東白川村青年建設班は、その作業時間一〇〇時間、学習の後順調な活動を続けてい時間三二時間(一人当たり)です。三十五年度内には十と予定以上の成果を挙げます。



二月二十五日から一月三日までの年末年始休暇をとつた後、四日より新しい仲間三人を加え合宿生活に入りました。建設班の活動は中日、岐阜日、岐阜民友などの日刊紙によつて各地へ報道され今後の農村青年の新しい行き方として注目されています。

十二月中の、風

作業を行つて夜学習という日程は、班員にとつて苦痛であつたようですが、フアイトで吹きとばし続けてきました。これからは、風間学習をなるべく多く実施して、夜間学習を減らす方針です。

なれない共同生活もこの頃ではすつかり板についた感じをうけ、十六人が家族同様なふん囲気の中にも規律だけはしつかりしています。班の活動が順調にいつている原因に、地元と婦人会の協力があります。建設班設立当時から問題になつてきた入浴のことも、附近の家の人暖い理解によつて毎晩利用出来、又副食についても婦人会の方々のおかげで、不自由なく使用できます。合宿生活の成功の可否は、生活面の裏付けが重

要なことですが、地元、婦人会等の協力によつてこれに恵まれている建設班は、これからも益々充実した内容の班となつていくことをしよう。

(写真は測量実習中の隊員)

の茶だけで、茶はその間にも、取木によつて苗の生産出荷もでき、三十五年春には、一、五〇〇本の取木苗を出荷するに至りました。しかし取木苗をとると、台木が老朽化してしまうので苗生産は挿木に切替え畑は生葉生産にするそうです。こうして畑の茶は成長を続けていますが、グループ員も開墾当時の人は数名になりましたが、それでもグループの中には開墾当時のフアイトがみなぎつていて、今年です。グループはこのほかに、三十四年には共同作業による二町歩の牧野改良も行つていっています。農村の共同化が叫ばれている折この小さなグループの中の共同性から何かを学びとらなければならぬ様な気がしています。団員、学級生の減少が最近目に見えています。青年団、青年学級、とかく沈滞気味の活動の中に、こう云う忘れてはならない。地味乍ら堅実なグループの活動が続けられていることは何か心強きを感じさせられます。グループの茶畑から鉄釘の軽快な音が聞えるのももうわづかなようです(写真は共同畑の一部、上方やぶきた)

祝「成人の日」今年52名

来る一月十五日各地に於いて多様な祝賀行事が行われ、晴れて社会の一員としての門出を祝福するに「成人の日」は、各区分毎に「成人報告祈願祭」が各神社に於いて行われ、又村の祝賀行事としては、恒例の「成年記念植樹祭」が成人の山に於いて催される予定です。同祭も今年で六回

とと共に、伸びゆく若木の如くすこやかに成長することを目的として、将来村を背負つてたつ人間をと、自らの手で木を植えるこの行事は年々充実したものとなつて欠かすことの出来ないものです。今年の成人該当者は五十二名、晴れて社会の一員となるこの若ものたちの門出を心から祝福しま

川口松太郎
鹿地 亘
みよし等があり、昨年迄は五年へ入つて、その需要が

村の図書室

かげろう絵図(前後)

青い化粧 舟橋聖一

続不道德教育講座 三島由紀夫

ガラスの中の少女 有馬頼義

濡れた森(前後) 舟橋聖一

続々新三等重役 源氏鶏太

二人の武蔵 五味康祐

いたづら 原田康子

揚子江は今も流れている 犬養 健

火の誘惑 源氏鶏太

みんなみの敵のはてに 金城和彦

不発弾 赤江行夫

東京のプリンスたち 深沢七郎

俺は藤吉郎(十)



▷神土農業グループ◁

むら・の・な・か

こんなところに、こんなを、今年度より本格的に生畑があつたのか……葉生産に切替え、モデル茶園にするそうですが、今年初めて見た人の誰もがびっくりします。通称、裏(う)度植付を行う造成事業に係(しる)山と呼ばれる、神土の茶園に比して、その規模加舎尾内、地名中田にあるこそは小さいが、先端を行のが、神土農業グループのつていっているとグループ長安江の経営する共同畑です。今月敬次君は語つてくれました。は茶園造成事業の二年目のた。

この畑の出来たのは昭和二十九年の秋だそうです。現在このグループには十一して、安定したこの村の人のグループ員が所属し面農業経営の確立のための積一反五畝の畑を経営して「有利な換金作物の栽培」います。今畑には一二年をとりあげ、我村の特産で後には鉄釘の出来る様なある茶、にんにく、桐苗栽培が栽培され「全部品種も培をとり上げ、机上の学習のですよ」と、グループ員だけではと、荒畑を借受けが自負するだけあつて見事に開墾し、実習畑を作り上な茶畦が続いています。茶げたわけです。その中から品種には、やぶきた、や先ず、腐敗病によつてにん